

[平成 22 年度普及に移す技術]

[技術名] コギクにつくカスミカメムシ類の効果的な防除法

[要約] カスミカメムシ類は、黄色の粘着板に誘引される。コギクの花蕾や開花した花中に、カスミカメムシ類の成幼虫が着生している。‘さきがけ’、‘かなこ’、‘やよい’等の品種は心どまりや葉食害が多い。市販されている農薬の感受性はいずれも高く、MEP 乳剤で効果が期待できる。防除時期は 6 月上旬から下旬に行うことで心どまり株の発生を抑制できる。

[キーワード] カスミカメムシ類、被害解析、発生予察

[担当] 福井園試・花き研究グループ

[連絡先] 0770-32-0009、電子メール enshi@pref.fukui.lg.jp

[背景・ねらい]

本県の主要な切り花品目であるキクは、近年、カスミカメムシ類による被害が多発し、品質の低下が問題となっている。そこで、カメムシに注意する品種、予察方法、効果的な農薬使用による、カスミカメムシの防除技術を開発し、減農薬キク栽培の推進を図る。

[技術の内容・特徴]

- 1 カスミカメムシ類は、黄色の粘着板に誘引される(図 1)。これを用いることで発生予察に活用できる。
- 2 ‘さきがけ’、‘かなこ’、‘やよい’等の品種は、心どまりや葉食害の被害をうけた切り花率が高い傾向がある(図 3)。
- 3 農薬の散布は 6 月上旬から下旬に行うことで、栽培時にみられる心どまり株の発生を軽減する。市販されている農薬の感受性はいずれも高く、MEP 乳剤で十分な効果が期待できる(図 4)。

[技術の活用面・留意点]

- 1 暮れ植えギクの収穫残り花や野生ギク、ヒマワリ等の景観作物、雑草がカスミカメムシの発生源となるため、古株の除去や除草等の圃場管理を徹底する。また、キクの収穫残り花にカスミカメムシ類の幼虫、成虫が着生しているため(図 2)、収穫残り花は除去する。
- 2 電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- 3 本データは、美浜町での結果であり、防除時期や薬剤の感受性については多少異なる可能性がある。各地区での予察情報も加味して防除する。

[普及計画]

普及目標：県内キク栽培農家 50 戸導入(平成 25 年度)

普及対象：キク栽培農家

普及に向けた対応：キク生産組合での実証、フィールドレポートに掲載、成果発表会での発表、農林総合事務所等が主催する研修会での情報提供

[具体的データ]

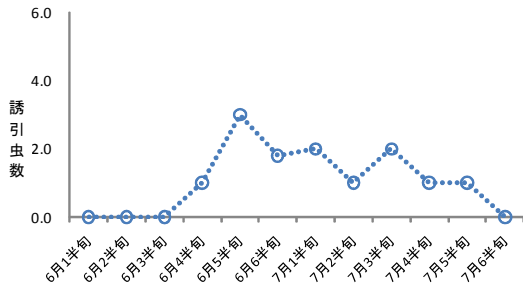


図1 黄色粘着板に誘引されたカスミカメムシ類の虫数推移 (美浜町:2008年)

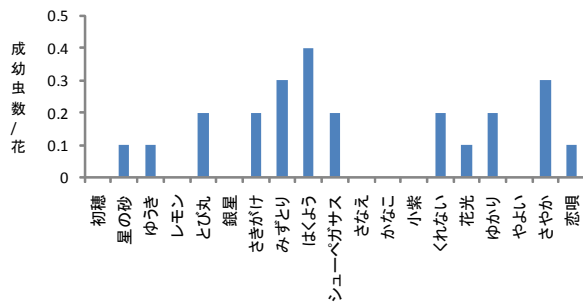


図2 コギク品種と花中に着生する成幼虫数

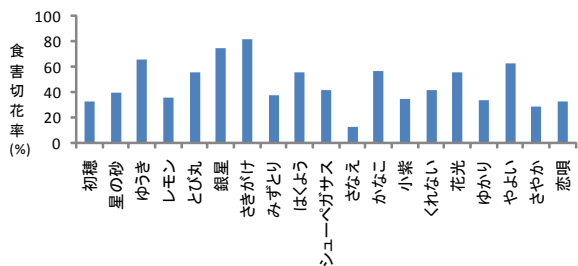


図3 コギク品種と切り花被害率

挿芽日：2007年4月2日、定植日：4月17日黒マルチ被覆、無農薬栽培、収穫後の切り花を調査

薬剤名	濃度 (ppm)	供試 虫数	死虫率(%)		備考
			1日後	2日後	
ジノテフラン顆粒水溶剤。	100	42	12	12	浸透移行性
ジノテフラン顆粒水溶剤。	100	35	11	17	浸透移行性
ベルメリン水和剤	100	23	100	—	
MEP乳剤	500	39	100	—	
クロチアニジン水溶剤	40	28	100	—	
無処理	—	22	5	5	

[その他]

研究課題名：環境にやさしい減農薬キクの栽培技術の開発

研究期間：2007～2009年度

研究担当者：坂本浩、加茂良樹



写真 カスミカメムシ類の被害
上：管状花部分が褐色に変色し、花被片が委縮している
下：心どまりと茎曲がり症状

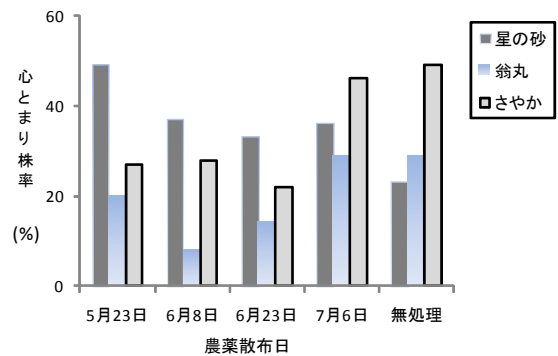


図4 ME P 剤散布日が心どまり株率に及ぼす影響

定植日;2009年4月19日、ME P 剤 1 回散布、露地栽培、白黒マルチ栽培